

地震本部の成果の活用について

「防災調査研究のプロセスを 『見える化』する」

株式会社危機管理教育研究所

危機管理アドバイザー 国崎 信江

「これまでの防災研究の成果」

ア：これまでの成果

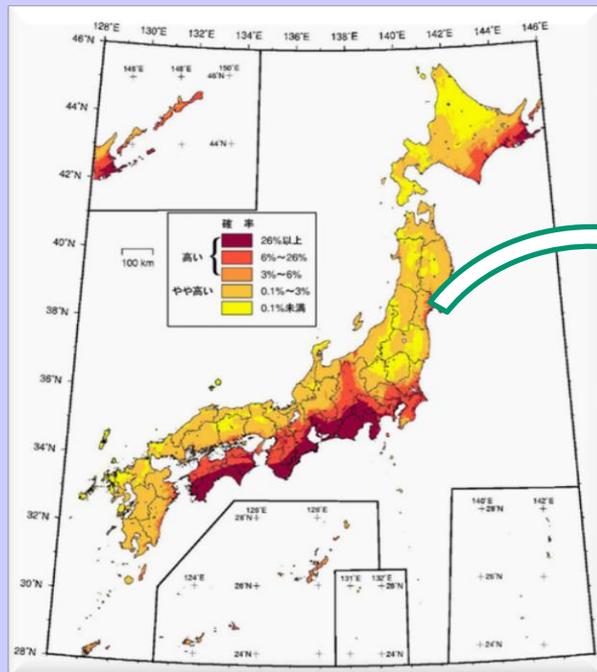
地震調査研究推進本部地震調査委員会から全国を概観した地震動予測地図が作成、公表された。

- ⇒自分の住む地域が今後30・50年以内に震度6弱や5弱以上の揺れに見舞われる確率などが表示されるほか、活断層の位置を地図上に表示し、身近にある潜在的な危険を確認できる。
- ⇒自らの生命と財産を守るための重要な情報であるが、地震防災情報の一般公開は、全国的に整備が遅れていた。地震動予測地図は全国の情報一般公開することで地震調査研究と災害軽減に大きく役立つものである。

「地震動予測地図」の認知度

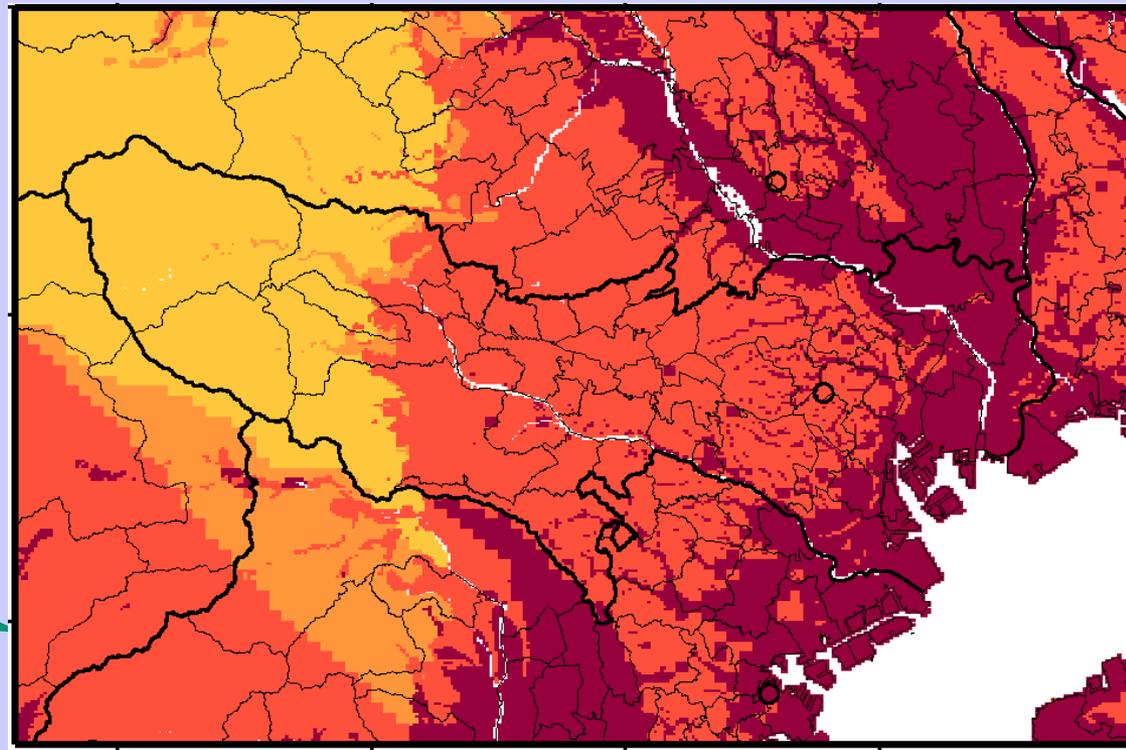
防災の講演会では必ず地震動予測地図を紹介し、見たことがあるか質問している。

東京都を見てみましょう…



30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率

見たことありますか！？



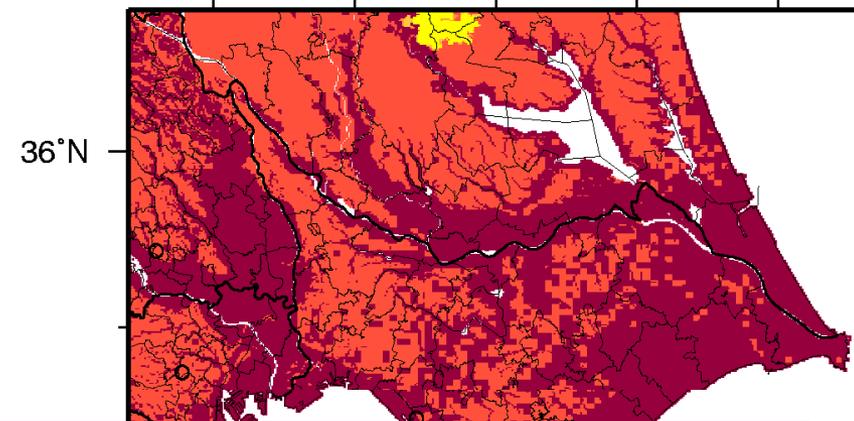
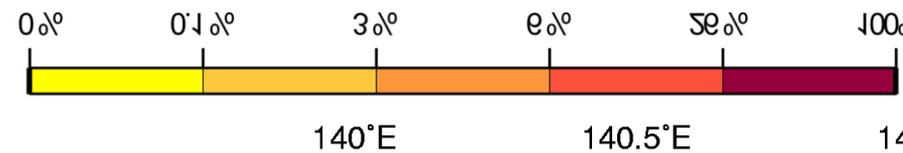
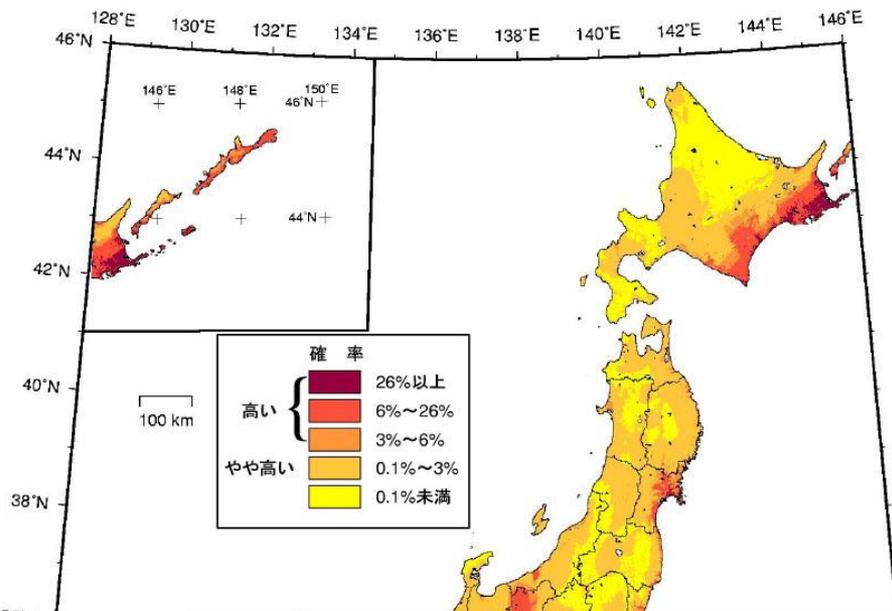
イ:現状と課題

- ⇒ 「見たことがある」という拳手がほとんどない
「地震本部の存在」も知られていない
どのような地震調査研究をしているのか知らない
- ⇒ 次回の講演はその箇所を割愛してほしいとの要望
「市民対象に難しい話をされても理解できないから
身近でできる具体的な対策の話を！」の声。

周知・広報の問題か、防災意識の低さによる問題か？

「地震動予測地図」の理解度

「この地図で何を伝えようとしているのか」
地図の読み方がわかりにくい



確率論的地震動予測地図でのカテゴリ
(カテゴリⅠ、カテゴリⅡ、カテゴリⅢ)がわかりにくい。

海溝型地震という単語も一般の人には分からない。

教育現場では

- ⇒ 「地震動予測地図」というタイトルから何を伝える地図なのかわかりにくい
- ⇒ 児童・生徒から質問を受けたとき答えられないことが出てきそうなので手をつけにくい。
- ⇒ 色の境目の部分はどのように伝えたら良いかわからない。地図で示されるより、テキストベースの方が良い。（そのまま、読み上げて伝えることが出来るので）

地震動予測地図を読み解くには専門知識が必要なので、敬遠されがち。

「地震動予測地図」の必要度

誰が必要としているのか

この地図がないことで誰がどのように困るのか

- ⇒ 日本地図も都道府県別の評価もいない。
ピンポイントで自宅の周辺の評価を知りたい
- ⇒ 利用者は誰か。その利用者（研究者・自治体・技術者・一般市民）のニーズにあった情報を出せているか。情報が建築防災や建物の耐震設計等に活用されていないことから、民間・企業に十分に活かされていない。

「地震動予測地図」の周知

ウ:課題解決に向けて

とにもかくにも、目に触れる多くの機会を創出する

⇒学校では

教科書の背（裏）表紙 学校の掲示版、父兄へのお便り

⇒地域では

回覧板（防災の日に） 自治体が発行するさまざまなパンフレットや小冊子の背（裏）表紙 防災講演会のチラシ

⇒その他

メールの署名欄に紹介文とURLを記載する

よくわからないけど、いつも目にする。「日本居住者なら一度は見たことがある」を目指す。

平成21年7月21日
地震調査研究推進本部
地震調査委員会

全国地震動予測地図

地震調査研究推進本部は、「地震調査研究の推進について－地震に関する観測、測量、調査及び研究の推進についての総合的かつ基本的な施策－」（平成11年4月23日）において、10年程度の当面推進すべき地震調査研究の主要な課題として、「全国を概観した地震動予測地図」の作成を挙げた。それに基づき、地震調査委員会は、平成17年3月に「全国を概観した地震動予測地図」を公表した。

引き続き、地震動予測地図の高度化に向けて、地震動予測手法や地下構造モデルなどの改良の検討を実施してきた。そして今回、それらの成果をとりまとめて、「全国地震動予測地図」を作成した。

今回公表した「全国地震動予測地図」については、国民の防災意識の向上や効果的な地震防災対策を検討する上での基礎資料として活用されることを期待する。

以下から、『全国地震動予測地図』の公表について』および本編（「地図編」・「手引編」・「解説編」）、別冊1（都道府県別確率論的地震動予測地図）、別冊2（震源断層を特定した地震動予測地図）の各冊子（PDF形式）、技術報告書、また、主な図の高解像度版（PNG形式またはPDF形式）をダウンロードすることができます。

○ファイルサイズが大きいものが多数ありますので、ダウンロードされる場合はご注意ください。10MBを超えるものについては、ファイルサイズの記載を赤字にしています。

○地図を詳細に拡大すると、一部で変形したメッシュの見える場合がありますが、ファイル変換の作業上のものであり、ご了承ください。なお、独立行政法人防災科学技術研究所ホームページの地震ハザードステーション（Japan Seismic Hazard Information Station、略称：J-SHIS）では、そのような支障なく、各種地図が閲覧できますので合わせてご利用ください（各種数値データ等のダウンロードも可能です）。

○PDFファイルの閲覧には、アドビ・システムズ社が無償配布する「Acrobat Reader（バージョン5.0およびそれ以降）」または「Adobe Reader」等のソフトウェアが必要になります。各ソフトウェアの操作方法については、それぞれのヘルプメニューを参照してください。なお、「Acrobat Reader」および「Adobe Reader」は米国のアドビ・システムズ社の登録商標です。

● 「全国地震動予測地図」の公表について（平成21年7月21日公表）（PDF 2,532 KB）

● 本編（「地図編」・「手引編」・「解説編」）



地震ハザードステーション J-SHIS (Japan Seismic Hazard Information Station)

1320685

地名 例: 東京都庁 場所を検索

確率論的地震動予測地図

地震力カテゴリ別地図

影響度

条件付超過確率

想定地震地図

表層地盤

深部地盤

被

考慮した地震 全ての地震

平均ケース

最大ケース

30年 震度6弱以上の揺れに見舞われる確率の分布図

2010年版

震源断層

- 主要活断層帯
- その他の活断層
- 海溝型地震震源断層
- 海溝型地震発生領域
- 主要活断層帯地表トレース

地震活動モデル

地すべり地形

地すべり地形

※地図を拡大すると表示されます 凡例

透過率

ニュース

2010-11-30

[地すべり地形分布図の更新について...](#)

[ニュース一覧](#)

[J-SHISについて](#)

[操作方法](#)

[解説書](#)

[用語集](#)

[FAQ](#)

[Download](#)



確率0(%)のメッシュは無色です。



WEBサイトの作り方に問題？

- 「全国地震動予測地図で検索すると専門的なページが出てきてしまう。まずテキストが出てくるトップページで、すでに見たくない。」
- 「関心が高くないと、目的の情報にたどり着くのが辛くなる」
- 「J-SHIS はどこに知りたい情報があるのかが分からない専門家向けのWEBサイトだと思う」
- 一般の人にとって、全国地図はいらない。一点のみ知りたい。自宅の住所を入力すればテキスト形式のデータが出てくるようにしてほしい。
- 研究成果を一般の人に伝えるのに確率論的地図で表現している趣旨が理解できない。かえってわかりにくい。

「これからの成果の普及のあり方」

ア:新しい視点で普及を考える

『わが国の地震調査研究を国民にしっかり伝えよう』

⇒ひとつひとつのプロジェクトを丁寧に紹介する

(どの組織が何をわかろうとしてどのような調査研究をどこでどのくらいの期間しているのか だれがどのような思いで挑戦しているのか)

『大人も子どもも見ている楽しい、わくわくする科学技術を、感動を国民に伝えたい』

例:世界に誇る日本の最先端の科学技術(ちきゅうやEディフェンスなど)や日々の地道な調査の積み重ねによって地震動予測地図ができるまでのドキュメンタリー映像を作成する。作り込みイメージはプロジェクトX!!

「ちきゅう」情報発見サイト
地球 CHIKYU HAKKEN
 EARTH DISCOVERY

ENGLISH | サイトマップ | お問い合わせ先


 検索

- ちきゅう
- 研究航海
- CDEX
- ご利用ガイド

研究航海情報 | データ・サンプル | 科学出版物 | 船上研究設備 | 検層サービス | ちきゅう科学オペレーションポリシー | 乗船申込・手続 | コア・ログ・地震データ統合

- キッズ
- 学生の方
- 教育関係者の方
- 科学研究者の方
- 報道関係者の方

「ちきゅう」IODP研究航海スケジュール

南海掘削ステージ3
 沖縄海底下生命圏掘削

1 2 3 4 5

現在のちきゅう [詳細](#)

南海トラフ

画像 ©2010 - 利用規約

「南海トラフ」特設ページ
 巨大地震発生メカニズムを
 解明せよ!

NEWS [ニュース一覧はこちら](#)

2010年12月13日 **NEW**
[JAMSTECプレスリリース]
 IODP第332次研究航海の終了について
 ～長期孔内観測装置の設置に成功～



国家基幹技術である「海洋地球観測探査システム」の一環として開発した長期孔内観測装置の設置に成功しました。これにより巨大地震の発生メカニズムの解明および発生時のリアルタイム情報の取得等に資する観測が可能となります。

[記事全文はこちら](#)

2010年11月30日

Season's Greetings
 from Chikyuu

ちきゅう
 DISCOVER THE FUTURE
 TV

「behind the scenes」
 最先端研究を支える
 「舞台裏」をのぞく
[<機関長編>](#)

[前のページへ](#)

[次のページへ](#)

